

「あかりを灯す学童保育所」 ～子どもと高齢者をつなぐ未来の輪～

2 学年課題研究 I D P 福祉班

2 年 3 組 竹中雅珠（責任者）

竹松美羽

千々和恵梨

4 組 王 聖紘

松下蓮大

吉田優希

### 1 ビジネスプランを思いついたきっかけ

現在、直方市の商店街はシャッターの閉まった空き店舗が多くあるためその空き店舗を学童保育所として有効利用し、商店街に活気を与えたいと考えた。また、周辺に住む高齢者の方々に働いてもらい、空き店舗を新たに学童保育所としてオープンすることで高齢者の方々と子どもの交流を増やしたいと思ったので、「あかりを灯す学童保育所」を提案する。

### 2 サービスの内容

直方駅前の商店街の空き店舗を使い、子どもたちの学童保育の場所にするすることで商店街の空き店舗を有効利用する。その学童保育所で近隣の高齢者の方に働いてもらう。そうすることによって、商店街に活気を与えるとともに高齢者の方も生きがいや楽しみが増え、有意義な時間を送ることができ、一人暮らしの方も孤立することがなくなると考える。

#### (1) 利用時間

通常は15:00～19:00までとし、長期休みの際は9:00～17:00までを考えている。

#### (2) 料金

1ヶ月 8000円（おやつ代込み）を考えている。

#### (3) 高齢者のスタッフ～

高齢者のスタッフと放課後支援員を1人ずつペアとして2ペアを2時間交替で働いてもらう。高齢者の方は時給900円 放課後支援員の方は時給1000円としている。他の学童保育所との違いは駅の近くの商店街にあることで仕事帰りに迎えに行くことが簡単であり、保護者の人の負担が少ない。また、他の学童保育所よりも預かり時間が長く、長休みの際でも預かりを行っている点である。

### 3 このサービスのターゲット

このサービスのターゲットとしては周囲にある小学校に通っている約3000人の1～6年生のうちの30人の児童の保護者をターゲットとして考えている。

### 4 広告方法について

チラシを小学校に配り、保護者の方に見てもらおう。また、SNSや学童保育所のホームページを設置し、その中でも様々な情報や、お知らせを記載することで多くの人の目にとまるようにする。

## 5 必要な経営資源

必要な経営資源としては、駅に近い商店街の中にある空き店舗、働いてくれる放課後支援員、高齢者の方が必要になってくる。また、おもちゃや、食器、本などの遊び道具なども必要である。

## 6 収支計画

一月8000円で30人の子供が通うと考えて計算するとこのようになった。

人件費	136万8000円
売上	288万円
必要経費（家賃、おもちゃなど） その他	125万400円
利益	26万1600円

## 7 実現に向けての課題

実現に向けては今の学童保育所の現状をもっと詳しく調べ、より魅力的に、こちらの方に通いたくなるようにしていく必要がある。

## 8 感想

今回のSGHの授業で直方市の町の活性化を考えて行くに当たって、まずは直方市の今の現状を知ることから始めた。次々に調べていくうちに、かつては賑わっていた商店街がどんどん活気がなくなっているのを知り、どうにかしたいと思った。

直方市が抱えている問題は商店街のことだけでなく、高齢者の方々の生きがいを見つけてあげることや、高齢者の方々のコミュニティとしての場所を作ることも見つかった。これらの問題を全て解決できる方法を考えることは難しかったが、これまでとは違った様々な視点から物事や問題を観察・考察することで色々な物の見方や考え方を学ぶことができた。また、自分たちの計画を何も知らない人に説明する難しさなどを九州大学での校外学習で学ぶことができた。この経験はこれから先、大学・職場で役に立つと思った。

SGHの取組の中で数多くのことを学ぶことができた。これからも学んだことを生かしていきたい。